

# 令和6年度 第1回倉敷科学センター協議会 議事録

- 【日時】 令和6年8月28日(水) 18:30～21:03
- 【会場】 倉敷科学センター研修室及びプラネタリウム
- 【出席委員】 上山委員、桑本委員、末田委員、中原委員、原委員、廣畑委員、福田委員、箕口委員、三宅委員、山田委員
- 【欠席委員】 なし
- 【事務局】 森部長、田中所長、浅野館長、三島主幹、石井主幹、西村主幹
- 【傍聴者】 なし

## 1 開会

### (1) 挨拶

【事務局】 これから、倉敷科学センター協議会を開催します。私は、科学センター館長の浅野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、会議の成立について確認いたします。倉敷科学センター条例施行規則第10条第6項の規定により、委員の半数以上の出席をもって会議は成立とあります。委員数10人のところ、現在の出席者数は8人ですので、会議は成立しております。※

この会議は原則公開となっておりますが、本日の傍聴者の方はいらっしゃいません。それでは開会にあたり、ご挨拶を申し上げます。

※その後、2人の委員が出席し、計10人となった。

【部長】 科学センター協議会にご出席いただき、ありがとうございます。平素は本市教育行政にお力添えをいただき、ありがとうございます。

さて、長い間私たちの生活に暗い影を落としきた新型コロナウイルスも、少し落ち着きを取り戻したように思います。科学センターでも、令和5年度の入館者数が16万人を超え、やっと、コロナ禍前の数字に戻ってきたと思っています。すぐに戻ってきたのも、子どもたちを始めとして市民の皆様方が、新しい学習や体験を期待していたのだらうと思っています。教育委員会でも、皆様方の期待に応えられるよう、科学センターを始めとした、生涯学習施設の運営に、取り組んでいきたいと思っています。

教育委員会では、駅前にある自然史博物館をライフパークに移転、新築する計画を持っておりました。この8月にその基本計画の案がまとまりましたので、公表しております。今パブリックコメントを募集していますので、また見ていただきたいと思っています。この基本計画では、ライフパークを知の拠点として運営していくことを掲げております。新しく来る自然史博物館と、この科学センター、埋蔵文化財センター、市民学習センター、一体となって倉敷市の生涯学習の拠点施設となるよう取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(山田委員が遅れて到着)

本日の協議会は、科学センターの令和5年度の事業実績、それから令和6年度の計画について、説明いたします。そのあと、全天周映画の試写会、選考をしていただきます。委員の先生方の忌憚のないご意見をお待ちしております。

引き続き、生涯学習の推進につきまして、ご支援、ご協力を賜りますようお願いし、教育委員会からの挨拶とさせていただきます。

(中原委員が遅れて到着)

(2) 委員紹介 (名簿順に自己紹介)

(3) 事務局紹介 (自己紹介)

## 2 諮問

(1) 令和6年11月期及び令和7年3月期全天周映画上映作品の選定について

【事務局】 本日も協議いただく倉敷科学センター事業計画について、諮問をいたします。私がこの場で読み上げます。

倉敷科学センター協議会 会長 箕口けい子様

(諮問)「令和6年11月期及び令和7年3月期全天周映画上映作品の選定について」

(浅野館長から箕口会長へ諮問書を手渡す)

## 3 報告・協議事項

(1) 議事録署名人の選任

【事務局】 ここから箕口会長に議事進行をお願いいたします。

(ここから箕口会長が議事を進行)

【会長】 最初に、本日の議事録署名人お二方を決めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(特に意見なし)

【会長】 では、私のほうで指名させていただいてもよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

【会 長】 それでは、中原委員さん、原委員さん、よろしくお願いいたします。

(全員異議なし)

【会 長】 お二方、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 【報告1】 令和5年度事業実績について

(3) 【報告2】 令和6年度事業計画について

【会 長】 次に、令和5年度事業実績について、および、令和6年度の事業計画について、事前に資料の送付があったかと思いますが、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 資料の2ページ目の表をご覧ください。上段の所に「2. 月別入館者」とあり、これが、10年間分の入館者数をまとめたものです。一番右の欄が年間入館者数で、一番下が令和5年度の入館者数で、160,488人でした。前年度が12万3千人でしたから、増えています。その前の2年度間は、コロナの影響もありまして6万人台でした。もうひとつ上が令和元年度です。17万5千人。そして平成30年度は14万5千人で、これはおそらく平成30年の豪雨災害の影響があったのではないかと思います。それから上が、通常どおりの運営であったと思っております。ですから、事務局としては、コロナ禍前入館者数に戻ったと考えております。

ちなみに今年度、令和6年度、4月から7月までの4か月間入館者数を昨年度と比べてみると、1.13倍と増加した数字になっています。いろいろな要因があるでしょうけれども、安定的な運営ができておりますので、引き続き努力してまいりたいと思います。

続いて資料2、4ページをご覧ください。昨年度の事業実績です。一番上に決算額を書いております。96,068,121円、これが昨年度の決算額でした。だいたい1億円です。

2のところの開館日数を書いております。307日と、昨年度は臨時休館をすることはありませんでした。それより下、プラネタリウムの番組、それから展示の運営などを書いてあります。

次に、今年度の事業計画をご説明します。資料3-1、7ページをご覧ください。予算額103,132,000円です。予算額ベースで言いますと、670万円の増額になっています。主な理由としては、9人いる会計年度任用職員の待遇改善、勤勉手当が認められるようになったことで、352万円の増額になっています。他には、長年据え置きだったプラネタリウム機器保守点検委託料77万円、夏休み企画展製作委託料60万円などが挙げられます。物価上昇に伴い、そうしたものが予算額増になっています。

今年度の、特別なトピックスとしてご紹介したいのが9ページ、資料3-2です。科学センターでは、9月3日の火曜日からキャッシュレス決済を導入することにしています。これにより、来館者の方に利用しやすい環境を提供できる予定です。なお、一般的にキャ

キャッシュレス決済で利用している人の割合は約4割と聞いております。クレジットカード、QR決済のブランドなどに、だいたい対応できる予定です。

次のページ、カラーのページをご覧ください。資料3-3、10ページ目になります。日本最初の民間天文台として大正15年に建設をされ、平成25年にライフパーク倉敷に移設された国登録有形文化財、旧倉敷天文台スライディンググループ観測室の修繕についてご報告をします。このスライディンググループ観測室は、建設当初からの部材を利用して復元されたこともあり、老朽化しておりました。そこで、昨年度末から修理をしており、この度完了いたしました。9月、10月の太陽観察会では、実際にこのスライディンググループ観測室を使用する予定です。外壁も新しく塗りまし、補強の部材を取り払いましたので、端正な姿になったのではないかと思います。以上で説明を終わります。

【会長】令和5年度事業実績および令和6年度事業計画について、ご意見ご質問はございませんでしょうか。

【委員】倉敷天文台スライディンググループ観測室は、よく頑張って直していただきました。ちょうど10年経つんですね。建物は、外壁塗装はだいたい10年したらダメになってしまう。塗装は重要だと思うし、建物だからちゃんと利用したほうが長持ちする。だから積極的に事業を計画して、活用してってください。よろしくお願いします。

【事務局】ありがとうございます。

【会長】他にご意見はございませんでしょうか。

(特に意見・質問なし)

【会長】それでは、(2)の令和5年度事業実績および、(3)の令和6年度事業計画の報告は、それぞれ認められたことといたします。

(全員異議なし)

#### (4) 【協議】令和6年11月期及び令和7年3月期全天周映画上映作品の選定について

【会長】次に(4)令和6年11月期および令和7年3月期全天周映画上映作品の選定にあたり、作品の視聴をするため、会場の移動をお願いします。本日視聴していただくのは3作品となっています。作品に関しましては、お手元の資料をごらんください。10分後からプラネタリウムで上映を開始します。

(プラネタリウムへ移動)

ープラネタリウムにて全天周映画候補作品試写を鑑賞ー

『ノーマン・ザ・スノーマン 流れ星の降る夜に』

『ドラえもん 宇宙の模型』

『MMX 火星衛星探査計画』

(上映終了後、ふたたび研修室へ移動)

【会 長】 それでは全天周映画上映作品の選定について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 3本の映画の資料につきましては、11ページ目、資料4以降の2枚と、映画のチラシが3作品ありますので、こちらをご覧ください。

まずは、資料の11ページ目、「全天周映画上映作品の選定について」をご覧ください。全天周映画につきましては、年間3本、7月、11月、そして3月に新作を投入しています。今回選定していただくのは、スケジュール案の「作品1」と表記しております、11月から上映する作品と、「作品2」と表記しています、来年3月から上映する作品の2本です。3本から2本を選んでいただきます。候補となる3本の作品は、資料の12ページの下半分、職員を対象に行った評価のランキングの、上位の作品を選んでいきます。ランキングの表の星印は、職員の評価から分析して、作品がより子ども向け、ファミリー向けの作品か、それとも大人向けの科学性の高い作品かを示しています。次の13ページは、近年の上映作品の一覧です。

そして、14ページ、「全天周映画の作品選定の基本的な考え方(ガイドライン)」をご覧ください。年間3本、7月、11月、3月に新作を投入します。作品B、作品Cにあたる「しまじろう」や「新オーロラを見た恐竜たち」との組み合わせを考慮して選んでいただけたらと思います。

【会 長】 では、さっそく委員の皆様にご協議いただきたく思います。どなたか、上映作品についてご意見、ご質問などございますでしょうか。

(特に自発的に発言を求める者なし)

【会 長】 では、おひと方ずつご感想、ご意見等伺っていきます。

【委 員】 「作品1」ですけれども、子ども向けということで「しまじろう まほうのしま」があつて、恐竜のことがあつて、「星の旅」が終わった後に何を入れるかということで、「スノーマン」は季節的に「作品1」にしか入らないと思うんですけれども、ここで「スノーマン」を入れるよりも、「星の旅 世界編」に代わるものとして「火星衛星探査計画」が、大人の方も楽しめる、見ごたえのあるものだと思います。

3月から7月の作品に入ってくる「作品2」については、「スノーマン」が冬ということもありますが、3月から4月になると小学生が遠足で利用して見させていただくので、ここで「ドラえもん 宇宙の模型」で星に興味を持ってもらい、夏の宿題には星を見るも

のもあるので、そちらにつなげられ、出てくる星座も春夏の星座が多かったようで、季節的にも内容が適していると思いました。

スノーマンも世界観が好きで、面白いと思ったので外すのは心苦しかったんですが、作品の組み合わせと、季節的なものと、活用の部分と、そのような視点で見たときに、その組み合わせが良いと思いました。

【会 長】では次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】私も3つともいい作品だと思って、「ノーマン・ザ・スノーマン」はどちらかと言えば心に訴えていくタイプ、「ドラえもん」は学習的内容もそこそこ入っていて、「MMX」はスケールの大きさがあって科学センター向きで、私も「ドラえもん」と「MMX」と思っています。「スノーマン」も捨てがたいですね。

【会 長】続きまして次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】「スノーマン」の流星群を見て、2000年ちょっと前のしし座流星群のときは、ベランダにホットカーペットとこたつを持って出て、うちの子どもと子どもの友達と3人で、夜中ずっと空を見上げたことを思い出して、ほのぼのした感じがしました。楽しい映画でした。

「ドラえもん」は、小さな子どもから大人まで楽しめる、その中で、銀河の話とか、太陽系の話も出てきて、学べるがあったと思うし、「MMX」は難しいと思う感じもあり、ちょっと長いと思った。すごく出来は良いと思うのですが、小さい子にはどうかと思いました。どれも素晴らしかったです。答えはなかなか出せません。

【会 長】次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】3作品とも興味深い内容でした。「スノーマン」は、3Dのメガネが無くても立体的に見えて、見せ方はすごく興味深かった。とはいえ、集客のことなど考えると、「しまじろう」が3月までなので、「作品2」のところに「ドラえもん」が良いと思いました。

そうすると「作品1」は、はやぶさ繋がりで「MMX」も良いと。たしかに、時間が長く少し難しめではあるんですが、じっくり見ていくことを考え、それも科学的な考えでということで、「作品1」のほうは「MMX」で、「作品2」のほうに「ドラえもん」を提案させていただきます。

【会 長】続きまして次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】3作品ともとても良かったんですが、プラネタリウムに見に来るのはどうしても子どもがメインというイメージがあり、個人的には「MMX」はすごく楽しかったのですが、子ども目線で楽しめる、夢があると感じられるのが「ノーマン・ザ・スノーマン」と「ドラえもん」だと思いました。

【会 長】次の委員さん、お願いいたします。

【委 員】「作品2」の方は、3月スタートで「ドラえもん」の季節で、ここはみなさん何となくそうあって、「作品1」が迷うところで、両方良かったと思いました。「MMX」はたしかに難しいということもありますが、CGとして非常によくできている。ただ、まだ計画中でこれから動くものということもありますが、講演会との相性は良いというのもあり、ライフパークで集客を目的として企画を組むのであれば「MMX」が良いと思いました。

【会 長】では次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】3作品とも素晴らしい作品で、こちらに来るお客さんの幅も広いかと思います。小さい子ども、小学生低学年となると、最初の2つ（「ノーマン・ザ・スノーマン」と「ドラえもん 宇宙の模型」）が良いと思います。しかし、一般の方については、最後の（「MMX 火星衛星探査計画」）も外しがたい。資料5の3つの資質に沿って1作品ずつ選定されるというのが今までの流れだろうと思うので、選ばれたらいいと思います。どれを外すかというのはなかなか難しい。流れも有ろうかと思しますので、参考になればと思っております。

【会 長】では次の委員さん、お願いいたします。

【委 員】「MMX」が良かったなと思って、見させてもらいました。スケールが大きくて。はやぶさからの流れがすごくタイムリーで良い。「作品1」については、「星の旅」が終わるので、「MMX」で私は良いと思いました。

あと、「しまじろう」の後となると、（後継作品として）やっぱり「ドラえもん」という感じで、幼稚園の子を想像してみると、「あ、ドラえもん！」となって、あっても良いのかなと思いました。

【会 長】ありがとうございます。

【副会長】先日倉敷イオンでお茶を飲んでいたら、「ライフパークでプラネタリウムを見るのが好きなんじゃ」って言うおじさんがたまたま隣にいたんです。私は協議会の委員ですから、「そうなんです、良かったですね」と言いたかったんですが、黙って小さくうなずいただけでしたけど。来館者集計を見ると、大人が8千人で子どもが4千人なので、大人向けが1本あって良いと思います。「MMX」は全天周映画の醍醐味というか、テレビのブラウン管や液晶の平面で見たら面白くないけど、いや面白いとは思うけど、よりダイナミックに見えてよかったので、「MMX」を推したいと思います。

もう一点は、どれも素敵だったんですが、天体に興味のない子どもでも「ドラえもん」だから見てみようかと、小さい子どもたちの一本目をアシストするには、有名なキャラクターの力を借りたいということで、「ドラえもん」にしたらいと思いました。

【会 長】3本見せていただいて、久しぶりにすべて宇宙に関係するものでした。だいたいどこかに恐竜が入ってくるのが常なんですけれど。プラネタリウムがある科学館らしい、どれも選びがたいと思いました。

【会 長】みなさんのご意見を伺えたので、どちらかと言えばというのも含めましてお聞きしていきたいと思います。令和6年11月期、「作品1」のほうの上映番組ですけれども、ご意見を伺うと「MMX」のほうかと思うのですが、いかがでしょうか。

(全員異議なし)

【会 長】では、令和6年11月期の上映番組は「MMX 火星衛星探査計画」とさせていただき、令和7年3月期の上映作品は、こちらはみなさんのご意見を伺いますと「ドラえもん」のほうでよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

【会 長】では令和7年3月期の上映作品は「ドラえもん 宇宙の模型」で、結論にしたいと思います。よろしいでしょうか。

【事務局】ありがとうございます。

【会 長】ではこの結論により答申書を作成いたします。副会長よろしいでしょうか。

【副会長】ありがとうございました。

## (5)その他

【会 長】その他に何かございますか。

【事務局】事務局から一点お願いを申し上げます。第2回の協議会の開会時間についてですが、現在科学センター協議会は夏と冬の年2回開催をしております。どちらも18時30分開会ですが、18時30分からが良いのか、平日の午前あるいは午後には開催できないか、あるいは18時30分より少しでも早く開催できないかとか、委員の皆様に改めてお伺いしたいと思っています。本日は時間もありませんので、後日メールでアンケートを取りたいと思います。私からは以上です。

【会 長】また後日メールでご連絡があるということなので、ご回答よろしくお願いいたします。

## 4 閉会

【会 長】 それでは、本協議会で予定されているすべての事項について、議論は終了いたしましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

(ここから事務局が進行)

【事務局】 ご審議いただきありがとうございました。以上で倉敷科学センター協議会を閉会いたします。

－以上－

令和6年8月28日

会 長 箕口 けい子 

---

議事録署名人 中原 貴子 

---

議事録署名人 原 正男 

---